

# 図書館だより 2023.7月号

「読みたい本がきっと見つかる！」農芸図書館 発行 2023.7.5 (水)



## 7/10から長期貸出OK

## まんが本長期貸出は7/21から

※まんが本7/21までに借りた人は翌日返却



### マッシュル—MASHLE—

そこは魔法が全ての世界。魔力に恵まれた者は輝かしき未来が約束され、魔力を持たない者は罪人として処分される。そんな過酷な世界で魔力のないマッシュはどうなる？アニメ化・舞台化の原作。～16巻まで入荷予定。



### ダーウィン事変

テロ組織が生物科学研究所を襲撃。妊娠しているメスのチンパンジーが保護された。彼女から生まれたのは半分ヒトで半分チンパンジーのヒューマンジー、チャーリーだった。チャーリーは人間の両親のもと15年育てられ高校に入学。「テロ」「炎上」「差別」などの問題に向き合うマンガ大賞受賞の話題作～5巻まで入荷予定。



月	火	水	木	金
海の日 17	18	19	20	終業式 21
24	25	26	休み 27	28
31	1	2	3	4
7	8	休み 9	10	山の日 11
休み 14	休み 15	休み 16	休み 17	休み 18
21	22	休み 23	24	25
休み 28	29	30	31	始業式 1

休館日の返却はポストをご利用ください。  
夏休みは貸出し冊数上限ありません。  
返却期限は9/1まで延長しています。  
時間がなくて読めなかったシリーズなど一気読みのチャンスです。  
所蔵していない本は購入または他校他館からの借受けをおこなっています。夏休みに利用したい人はお早めにお知らせください。





# NEW TITLE

農芸高校図書館 2023.7.5 発行 漁村の町並みやリアス海岸など三重の原風景を多数収録『三重のええとこ写真集』三重ってどんなとこ？と聞かれたときはこの本を。

## いとエモし。超訳日本の美しい文学

枕草子、万葉集、古今和歌集、徒然草…などに綴られた古の言葉たちを「いまを生きる私たちの感覚」に合わせて“エモ訳”超美麗なイラストによって視覚化した新感覚エッセイ。「エモパワー」を強烈に感じながら、切なくなったり、勇気がわいてきたり、胸いっぱいな気持ちになれる。



## 日本で会えるペンギン全 12 種

### パーフェクト BOOK

水族館がもっと楽しくなる！世界 18 種のうち、日本にいるペンギン全 12 種のすべてがわかる。卵・ヒナも！もっと知りたい飼育員や獣医師アンケートから最新研究や医療のこともわかります。



## いつかみんな G を殺す

老舗高級ホテル、グランド・シーズンズ。清潔かつ華美なこの空間に居てはならない“G”出現！ホテルの威信をかけた大舞台！何としても失敗出来ない一夜に奮闘する支配人、シェフ、清掃員、秘書まで…阿鼻叫喚の光景。登場人物がクセ強で笑える。



## じつは裁判所ってこんな所なんです！

### Part2

最高裁ってこんな所なんです！裁判ドラマ「イチケイのカラス」を考察！経験した仕事、じつはこんな感じてした！皆が知りたい「裁判所ネタ」いろいろ！ほか…“じつは”話が満載！



## 「くうき」が僕らを呑みこむ前に

すごく貴重な「自由」を享受しているのに気づいていない。自分の頭でしっかり考えていないと、あつと言う間に失くしてしまうのに——。生まれたときから身の回りにある「自由」と「民主主義」について、「言論の自由」専門研究者と絵本作家のコラボレーションによる絵本。



## どうすれば争いを止められるのか

なぜ世界で争いが起きてしまうのか？どうすれば、争いを止められるのか？テロをなくすための暴力は正しいの？仲裁を成功させるためのヒントとは？戦争、暴力、正義、国際平和の真実を「紛争解決学」の視点からわかりやすく解説。



## メメンとモリ

「生きる意味」や「生きる目的」って必要ですか？「必ず死ぬのに、生きる意味ってなに？」。割れたお皿や、きたない雪だるまを前にした姉弟メメンとモリのふしぎな会話に納得。「いきものはべつに楽しむために生きているわけじゃないからね」と言うけれど…。ヨシタケシンスケ最新作。



## スラムダンク奨学生インタビュー

### その先の世界へ

『SLAM DUNK』作者、井上雄彦氏によるスラムダンク奨学金。この制度を活かしバスケットボールで夢をつかもうとする若者をアメリカのブレップスクールに派遣してきた。そのうちの 14 名に留学時の経験についてインタビュー。



## みやぎから、

仮面ライダーとの再会、七夕飾りづくり、廃線となった鉄道の運転など佐藤健と神木隆之介が宮城の食や伝統、産業、ものづくりなどさまざまな魅力を求めて訪ね歩く！人との出会いや対話を通して、伝統芸能や風習の継承、産業や文化の創造、そして震災の記憶など、二人が真摯に向き合い、これからの暮らしのあり方を模索する。

